

研究課題名 (倫理委員会承認番号)	tPA 投与前の診断補助に貢献できた 1 例 202310
当院の研究責任者(所属)	南里涼介(放射線部)
他の研究機関及び 各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	組織プラスミノゲン活性化因子(tPA)の静脈内投与は超急性期脳梗塞患者の血栓溶解を目的として投与される。病着からtPA投与開始までの時間(Door to Needle)は患者の転帰に大きく影響しており、救急外来では迅速なtPA投与が不可欠である一方で、tPA投与後に脳卒中模倣例や大動脈解離を伴う脳梗塞であったことが判明する場合がある。当院でtPA静注療法が施行された非適応症例3例とtPA投与前の診断補助に貢献できた1例を提示する。
調査データの該当期間	2014年1月1日～2023年4月30日
研究の方法 (対象となる方)	当院で tPA 静注療法が施行された非適応症例 3 例と tPA 投与前の診断補助に貢献できた 1 例を提示する。
研究の方法 (使用する情報)	当院で tPA 静注療法が施行された患者 345 例をカルテによる後方視的に検証する。
資料・情報の他機関への提供	なし
個人情報の取り扱い	被検者情報は匿名化したものを使用し、セキュリティーのある環境下で管理。
本研究の資金源 (利益相反)	なし
お問い合わせ先	翠清会梶川病院 放射線部 南里涼介
備考	